



# 学校だより

<http://www.sumida.ed.jp/ryogokusho/>

令和6年6月28日

墨田区立両国小学校

墨田区両国4-26-6

TEL 3634-7876



## 「両国ポンプ所見学」防災意識を高めて

校長 渡邊 圭三

先週、4年生と「両国ポンプ所」の見学に行ってきました。ポンプ所には、大雨が降って下水道が一杯になった際、そこを經由して川に放流するはたらきがあり、両国ポンプ所は昭和50年代、両国や錦糸町周辺で浸水被害が多発したため建設工事が始まり、平成14年に完成しています。本校の4年生は、社会科の学習「水害にそなえるまちづくり」の一環として、地域の下水道施設である両国ポンプ所を毎年見学しています。

職員の方のお出迎えを受けた後、子供たちは班ごとに担当の方に引率され、私が同行した班は、まず地下3階に案内されました。思わず上を見渡して声を上げてしまうような、とても広大な空間には「除塵機」と呼ばれる大きな機械が整然と並び、フロアの一角から地下5階のポンプの一部を覗くことが出来るようになっていました（右上画像）。



全てのポンプが稼働すると、口径5.25mの管の中を1分あたり東京ドーム1.7杯分の水が排水されると聞き、子供たちは驚愕。自分たちの身近に、それだけ大量の雨水を蓄え、ゴミを取り除いて凄まじい速さで隅田川に放流する施設があることに、感心しきりでした。その後地下2階の発電施設を見学し、地上1階フロアへ戻ってきました。ここでは、以下のようにブースごとに観察をして、大雨被害・洪水対策への理解を深めていました。

「立体地形図・墨田区水害ハザードマップ」…東京都東部の低地帯を色と凹凸で模した立体地形図、荒川が氾濫した場合の浸水想定区域図を見ながら説明を受けました。墨田区は川に囲まれ、区内東部ほど低地になっていて、水害の被害を受けやすいことを理解していました。

「管内カメラ調査」…下水管の中に水に溶けないものが入ってしまうと、詰まる恐れがあること。特に「油」はその代表的なものとなっているとのことでした。管内カメラで、模型の下水管の中を実際に見て、黄色く固まった油の固形物を皆で確認しました。

「雨水流入模型」…住宅地やビル街に大雨が降っている場面を想定して、雨水がどのように流入していくかを模型で観察しました。雨水ますが落ち葉等で塞がれてしまうと、下水管に流れ込まず浸水の危険性が高まってしまうことや、土嚢や止水板で雨水の侵入を防げることを視覚的に学びました。

先週、東京地方も梅雨入りし、雨の季節を迎えました。地球温暖化が進み、大雨による洪水の恐れも近年高まっています。今回、両国ポンプ所を見学し、洪水を発生させない仕組みを自分の目でしっかり学んできた4年生。また、毎年1.4年生に「東京マイタイムライン（来月ご家庭に持ち帰ります）」を配布し、洪水の際、自分自身がとる防災行動を時系列に整理し、自ら考え命を守る避難行動をとれるようおうちの方と話し合うようにと伝えています。ぜひ、ご家庭でも話題にされ、意識を高めていく一助にいただければ幸いです。